

## 世界のサイフ

追加型投信／海外／債券

## 交付運用報告書

第113期(決算日2016年5月12日) 第114期(決算日2016年6月13日) 第115期(決算日2016年7月12日)  
 第116期(決算日2016年8月12日) 第117期(決算日2016年9月12日) 第118期(決算日2016年10月12日)

作成対象期間(2016年4月13日～2016年10月12日)

第118期末(2016年10月12日)	
基準価額	2,623円
純資産総額	39,442百万円
第113期～第118期	
騰落率	△ 5.3%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
 右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界のサイフ」は、2016年10月12日に第118期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、世界の短期債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

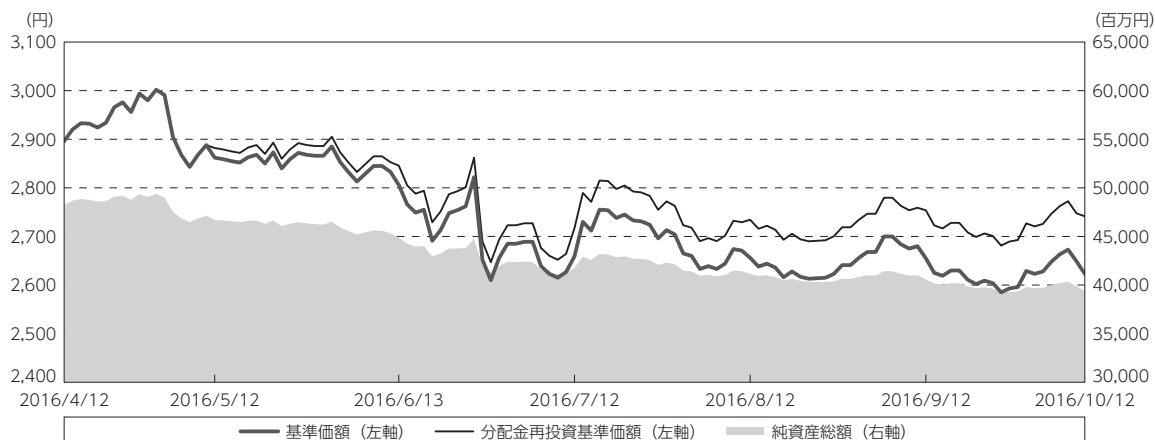
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
 午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2016年4月13日～2016年10月12日)



第113期首：2,896円

第118期末：2,623円 (既払分配金(税込み):120円)

騰落率：△ 5.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2016年4月12日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界の短期債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・利回りの高い現地通貨建て短期債券への投資による利息収入を得たこと。

## &lt;値下がり要因&gt;

- ・イギリスポンド、メキシコペソ、トルコリラ、ポーランドズロチなど、ポートフォリオの組入れ通貨の多くが対円で下落したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2016年4月13日～2016年10月12日)

項 目	第113期～第118期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	10	0.352	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 2 )	(0.081)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 7 )	(0.244)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
( 受 託 会 社 )	( 1 )	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.012	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 費 用 )	( 0 )	(0.010)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	10	0.364	
作成期間の平均基準価額は、2,755円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

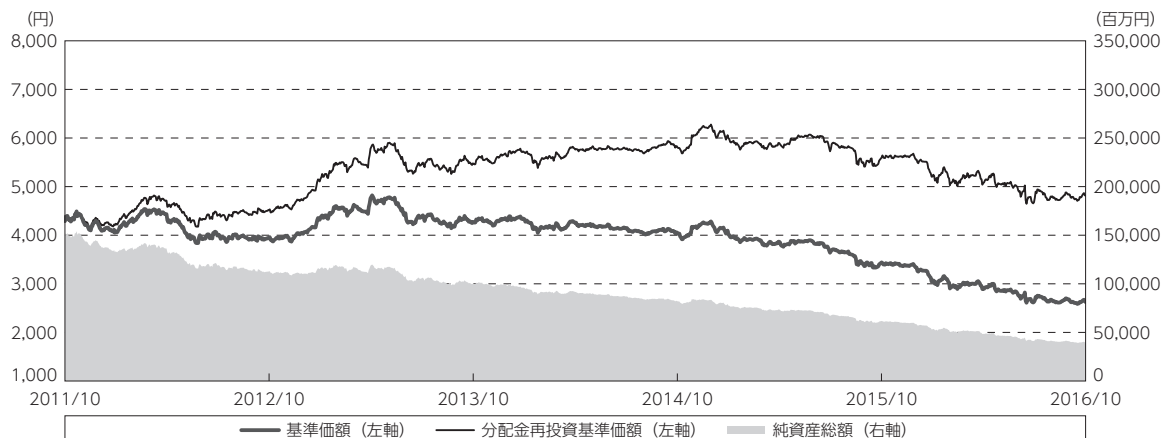
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年10月12日～2016年10月12日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額は、2011年10月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年10月12日 決算日	2012年10月12日 決算日	2013年10月15日 決算日	2014年10月14日 決算日	2015年10月13日 決算日	2016年10月12日 決算日
基準価額 (円)	4,289	3,877	4,302	3,974	3,427	2,623
期間分配金合計(税込み) (円)	—	610	480	480	480	320
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	4.8	23.8	3.7	△ 2.2	△ 14.7
純資産総額 (百万円)	148,732	110,391	100,597	80,595	61,550	39,442

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**投資環境**

(2016年4月13日～2016年10月12日)

**(海外短期金利市況)**

ECB（欧州中央銀行）は、2016年3月の会合でユーロ圏のデフレ入り回避に向けた取り組みとして、三つの主要政策金利の引き下げと債券購入プログラムの月額800億ユーロ増額を盛り込んだ追加金融緩和を発表しました。6月下旬の英国国民投票でEU（欧州連合）離脱（ブレグジット）派が予想外の勝利を収めたことにより、期間中の市場はボラティリティ（変動性）の高い展開となりました。BOE（イングランド銀行）は、英国の今後の経済成長をめぐる先行き不透明感の強まりを受けて、迅速に金融緩和に踏み切り、政策金利の0.25%引き下げと債券購入プログラムの合計700億ポンド増額を発表しました。多くの主要中央銀行は、ブレグジットが世界経済に及ぼし得る影響を踏まえ、金融政策運営にやや慎重な姿勢で臨んできました。これまでのところ、FRB（米国連邦準備制度理事会）は、米国経済の相対的に堅調な推移や労働市場の改善をよそに、主要政策金利（フェデラルファンドレート）を据え置いています。オーストラリアでは、2016年5月の利下げに続いて8月の会合でもさらに0.25%の利下げを決定しました。同様に、RBNZ（ニュージーランド準備銀行）は、自国通貨高とそれに伴う輸入物価への悪影響を懸念し、政策金利を0.25%引き下げて2%とすることを決定しました。一方、日銀は、政策金利引き下げという形での追加緩和を見送り、インフレ率が2%を超過するまで日本国債の買入れを続けると確約しました。また、日銀はQQE（量的・質的金融緩和）の枠組み変更も発表しました。これにより、日銀はイールドカーブ（利回り曲線）の過度なフラット化を回避しながら追加利下げを実施できるようになるとみられます。

新興国では、メキシコ中央銀行が2016年9月の会合で、過度なメキシコペソ安が国内の物価動向にとっての懸念材料となっていることを背景に、主要政策金利を0.5%引き上げて4.75%としました。一方、物価低下によって追加金融緩和余地が出ていたトルコでは、軍事クーデター未遂の影響による同国の資産価格の急落を受け、中央銀行が追加金融緩和を実施しました。その後、世界的な市場センチメントの改善傾向を受けて、新興国通貨が相対的に堅調に推移したなか、トルコの資産価格はやや持ち直しました。

**(国内短期金利市況)**

無担保コール翌日物金利は、期間の初めは概ね0%近辺でしたが、2016年4月後半以降は、日銀のマイナス金利政策の下で、コール市場でもマイナス金利での取引が本格化したことから低下し、-0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.47%近辺から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.31%近辺で期間末を迎えました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2016年4月13日～2016年10月12日)

## (当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「マルチカレンシーファンド クラスB」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・マーケット・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

## (マルチカレンシーファンド クラスB)

利回り水準の比較的高い通貨の短期金融資産への投資を継続しました。各国のファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)分析や、通貨ごとの短期金融資産の流動性など、各通貨のリスクを勘案し、投資対象通貨の選別を実施しました。当ファンドでは半年毎にポートフォリオの投資対象通貨の見直しを行ないませんが、2016年9月末に実施した定期レビューでは、保有していたイギリスポンド建て債券を売却し、カナダドル建て債券を組み入れました。期間末時点では、ポーランドズロチ、オーストラリアドル、ニュージーランドドル、カナダドル、メキシコペソ、ノルウェークローネ、アメリカドル、韓国ウォン、トルコリラ、チリペソの通貨建て短期債券に分散投資を行なっています。

## (マネー・マーケット・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年4月13日～2016年10月12日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 分配金

(2016年4月13日～2016年10月12日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
	2016年4月13日～ 2016年5月12日	2016年5月13日～ 2016年6月13日	2016年6月14日～ 2016年7月12日	2016年7月13日～ 2016年8月12日	2016年8月13日～ 2016年9月12日	2016年9月13日～ 2016年10月12日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	0.694%	0.708%	0.747%	0.747%	0.748%	0.757%
当期の収益	20	20	20	20	20	20
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	1,654	1,689	1,725	1,762	1,800	1,839

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「マルチカレンシーファンド クラスB」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・マーケット・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (マルチカレンシーファンド クラスB)

米国の利上げは2016年内に実施される可能性もあると予想していますが、利上げのペースは当初予想されたよりも大幅に緩やかなものになるとみています。ニュージーランドでは、コモディティ価格の軟調さやインフレの落ち着きを受けて、追加利下げが行なわれる可能性があると思われます。日本については、経済成長の加速やインフレ率の上昇が見られない場合、日銀が追加利下げに踏み切り、マイナス金利幅を拡大させると予想されます。

引き続き、ポートフォリオの利回りの最大化をめざし、原則として利回り水準の比較的高い通貨の短期金融資産に投資を行なう方針です。また、通貨リスクを最小限に抑えるとともに、ファンドの流動性を確保するため、各国のファンダメンタルズ分析に加え、様々な通貨建ての短期金融資産の流動性を調査し、それらへの投資についても検討を行なう方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・マーケット・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

2016年4月13日から2016年10月12日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

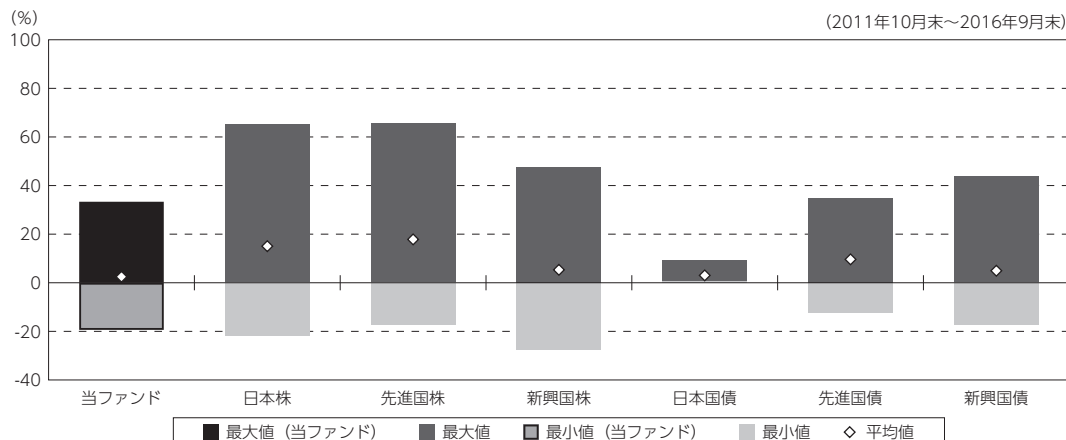
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2006年12月15日から2026年10月13日までです。
運用方針	主として投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「マルチカレンシーファンド クラスB」受益証券 「マネー・マーケット・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、経済協力開発機構（OECD）加盟国（これらに準ずる国を含みます。）の通貨の中から金利が高い通貨を10程度選別し、それらの短期債券市場に実質的に投資します。投資対象通貨は、原則として年2回程度見直します。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行ないません。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	33.3	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 19.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	0.5	△ 12.3	△ 17.4
平均値	2.5	15.0	17.8	5.3	3.0	9.6	4.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年10月から2016年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースィファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバースィファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年10月12日現在)

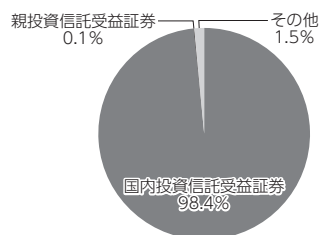
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第118期末
	%
マルチカレンシーファンド クラスB	98.4
マネー・マーケット・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

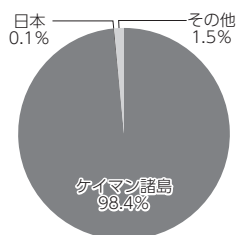
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

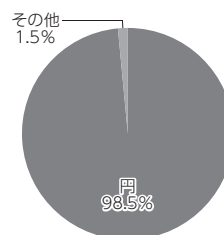
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

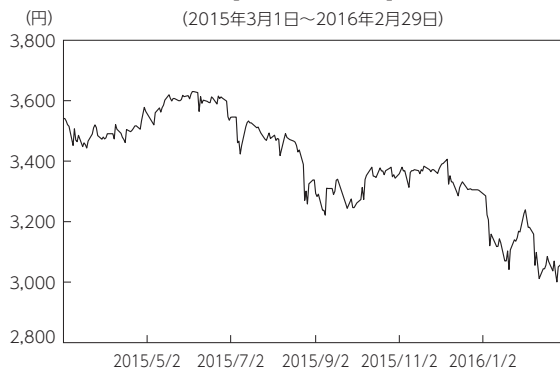
項目	第113期末	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末
	2016年5月12日	2016年6月13日	2016年7月12日	2016年8月12日	2016年9月12日	2016年10月12日
純資産総額	46,677,387,997円	44,873,069,468円	41,762,609,081円	41,149,254,698円	40,589,039,673円	39,442,921,445円
受益権総口数	163,086,731,517口	159,934,834,934口	157,066,418,440口	154,948,048,521口	152,877,404,667口	150,350,593,608口
1万口当たり基準価額	2,862円	2,806円	2,659円	2,656円	2,655円	2,623円

(注) 当作成期間(第113期～第118期)中における追加設定元本額は2,474,279,973円、同解約元本額は18,761,895,098円です。

## 組入上位ファンドの概要

## マルチカレンシーファンド クラスB

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2015年3月1日～2016年2月29日)  
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載していません。

## 【組入上位10銘柄】

(2016年2月29日現在)

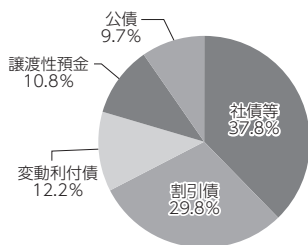
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1 Agence Centrale des Organismes de Securite Sociale 0% 18-Apr-16	割引債	ポーランドズロチ	フランス	9.5%
2 Agence Centrale des Organismes de Securite Sociale 0% 29-Mar-16	割引債	ユーロ	フランス	8.3%
3 Rabobank 4.25% 05-Dec-16	社債等	チリペソ	オランダ	7.0%
4 Korea Treasury Bond 2.75% 10-Jun-16	公債	韓国ウォン	韓国	5.7%
5 ANZ Bank FRN 31-Aug-16	変動利付債	メキシコペソ	オーストラリア	5.3%
6 Nordea Bank 0% 30-Mar-16	割引債	ノルウェークローネ	スウェーデン	4.2%
7 Korea Monetary Government 1.69% 09-Apr-16	公債	韓国ウォン	韓国	4.0%
8 Rabobank 3.5% 23-Nov-16	社債等	メキシコペソ	オランダ	4.0%
9 Agence Centrale des Organismes de Securite Sociale 0% 26-Apr-16	割引債	ニュージーランドドル	フランス	3.8%
10 Mizuho Bank Ltd Sydney 0% 22-Mar-16	譲渡性預金	イギリスポンド	オーストラリア	3.5%
組入銘柄数		63銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

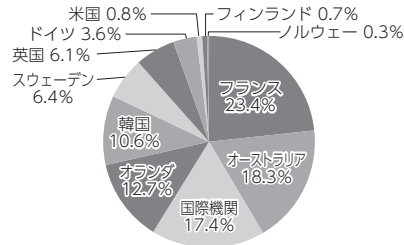
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

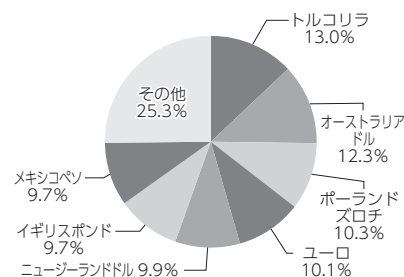
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



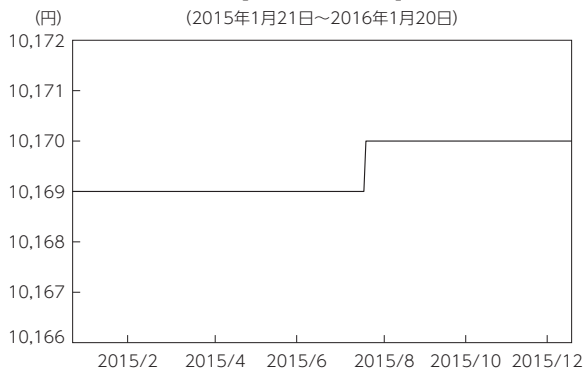
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## マネー・マーケット・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2015年1月21日～2016年1月20日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2015年1月21日～2016年1月20日)

該当事項はございません。

## 【組入上位10銘柄】

(2016年1月20日現在)

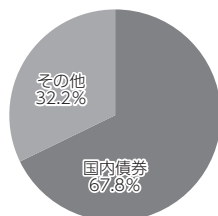
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	第579回国庫短期証券	国債証券	円	日本	54.2
2	第577回国庫短期証券	国債証券 (現先)	円	日本	13.6
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			2銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

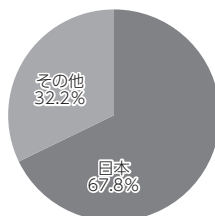
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

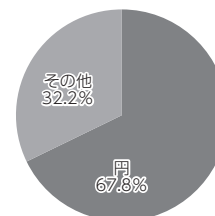
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書 (全体版) をご参照ください。